

受講申込書

ふりがな 氏名	(県民カレッジ単位希望者のみ記載してください) 〒
電話番号	

※取得した個人情報は、本講座以外の目的で使用することはありません。

受講を希望する講座に○をつけてください(複数可)

実施日	対象先人 / 講演題 / 講演者 / 講座概要
○ 11/2 (土)	<p>尾竹紅吉 「青鞆の10代社員、尾竹紅吉の天真爛漫な生き方」 作家、エッセイスト 森 まゆみ 氏</p> <p>尾竹紅吉は1893年に富山市に生まれた。父は日本画家の尾竹越堂。大阪の夕陽丘高等女学校を卒業し、東京の女子美術学校に入る。1912年、平塚らいてうの主宰する青鞆社に入り、随筆、詩、編集後記などを書く。その文章は今も古びていない。伊藤野枝、小林哥津とともに10代三人組であった。悪気がなく、五色の酒を飲むこと、マントを着てタバコを吸うこと、吉原遊廓を見物したことなどを吹聴したことからスキャンダルとなり、青鞆社の「新しい女」がパッシングされるきっかけをつくった。のちに陶芸の富本憲吉と結婚、しかし別居して「暮らしの手帖」などに多くの童話を載せた。大正時代を鮮やかに生き抜いた尾竹紅吉の魅力に迫る。</p>
○ 11/9 (土)	<p>田部重治 「田部重治の自然観と現代アメリカハイキング文化」 ハイカーズデポオーナー 土屋 智哉 氏</p> <p>大正～昭和初期の日本山岳界に偉大な足跡を残す田部重治。田部の興味と足跡の多くは日本アルプスと奥秩父に注がれ、冒険的な山旅がおこなわれるのですが、その心境は自然との関係性により深く焦点をあてています。彼の山旅における精神的な核はその初期から、旅をする地域、自然に対して深くつながりを持つようとしているのです。ヨーロッパアルピニズムとアメリカアウトドアの対比、北米のアウトドア史および文学史。これらと関連させながら、田部の登山観や自然観を概観していきます。</p>
○ 11/16 (土)	<p>山田孝雄 「山田孝雄先生に学ぶ — あゆみ・連歌・文法など —」 「熱血あるもの」黙視しうべき秋ならむや 山田孝雄 著者 神島 達郎 氏</p> <p>山田先生は、富山市名誉市民第1号の人。独学の人。学歴の上限は、中学校1学年終了。17歳で小学校授業生の免許を取得、続いて中学校国語教員、尋常師範学校国語科教員等の免許を取得。丹波篠山の鳳鳴義塾、奈良県尋常中学校五条分校、高知県立第一中学校安芸分校の教諭を務め、明治35年(1902)に『日本文法論』上を刊行。明治39年(1906)に上京、さらに研究に邁進され、翌々年(1908)に名著『日本文法論』全を刊行、1500ページにも及ぶ大著である。その後、大学教授、学長等を歴任。昭和32年(1957)には文化勲章受章、翌年11月に亡くなられた。享年83。</p>
○ 12/1 (日)	<p>吉井 勇 「吉井勇と高志びとたち — 疎開日記をもとに」 静岡県立大学国際関係学部教授 細川 光洋 氏</p> <p>歌人吉井勇は、戦争末期の昭和20年越中八尾に疎開しました。当時の歌は、歌集『寒行』『流離抄』にまとめられています。本講演では、勇の疎開日記をひもときながら、翁久允、川崎順二、小谷契月、林秋路ら「高志びと」たちと勇との交流を、歌とともにみていきたいと考えています。富山大空襲や終戦の日が記録された疎開日記は、富山の戦時史そのものでもあります。</p>

申込先

高志の国文学館

〒930-0095 富山市舟橋南町2-22

FAX076-431-5490